

追悼

T15.4～S2.3	樺太庁水産試験場
S2.4～S9.3	択捉島水産会孵化場
S9.4～S14.4	北海道鮭鱒孵化場
S14.5～S16.3	〃 〃 択捉支場長
S16.4～S22.12	北海道立水産孵化場択捉支場長
S23.1～S25.3	〃 〃 渡島支場長
S25.4～S27.3	〃 〃 十勝支場長
S27.4～S36.6	水産庁北海道さけ・ますふ化場 十勝支場長
S36.6.15	退職



昨年4月、水戸部勝治氏が80歳の生涯をとじました。氏の生涯は、大正14年、北大水産専門部を卒業以来、さけ・ます増殖事業にささげた一生でした。

その死を悼んで、長い間、共に増殖事業に挺身された八木沢氏から、本誌へ想い出が寄せられました。ここに、水戸部氏のご冥福を祈り、掲載いたします。

(編集子)

水戸部さんを偲ぶ

八木澤 喜家

昭和55年4月17日の晩、山本孝さん（東京在住、元ふ化場に居て水産庁へ出向、現在、日本鯉鮭漁船保険組合参事）から、突然、水戸部さんがご逝去されたとの電話をうけ、誠に驚きました。二月末、久し振りに電話をしたとき、奥さんが、

「最近健康を害し、二度目の入院をしています。電話のあったことを伝えたらどんなに喜ぶでしょう。」

と言っておられましたので、このような訃報を受けることは、全く予期しておりませんでした。

昭和5年4月、今はソ連領の択捉島水産会紗那孵化場へ、私が初めて就職した時、水戸部さんは、同会の別飛孵化場長でした。昭和9年、民営孵化場が北海道に移管になって、水戸部さんは私の居る紗那孵化場の場長として赴

任されました。以来、いろいろとご指導を受け、また、苦楽を共にしました。

水戸部さんは、大変温和で、また非常に凡帳面で、型通りの役人と言った人柄でしたが、時にはほどほどに酔い、「ソーラン節」を踊るなど、ユーモラスな一面がありました。

私が有朋事業場の主任兼務となった時のことです。捕獲場が河口に近く、ウライに落葉がつまると、集っていた親魚が殆んど海へ下ってしまい、それを何度かくりかえすうちに、淡水の混る湾内で産卵してしまう状況でした。そこで、大いに成績を挙げようと河口近くで曳網を曳き、これまでにない採卵数を挙げ、内心喜んで水戸部さんに報告したところ、詳細も聞かず、

「河口とはいえ、海面での採捕は違反である」

と、顔色を変え、唇をふるわせて、憤りの咳払いをくり返します。私は、成績を挙げることのみを考え軽卒であったと弁解の余地もなく、今後は絶対致しません、とほうほうの体で帰ってきました。

昭和14年、石井久治氏の後任として択捉支場長に就任されました。同場は8事業場を管轄しておりましたが、市街地から約12軒余の熊笹道、加えて年毎に対外交渉も多くなったため、管内の中央で、各官庁が所在する紗那への移庁を計画しました。本場へ要請しても望み薄なことから、択捉島水産会に寄付を願うことになり、大変な尽力の末に決定したときは、非常な喜びようでした。そして翌年移庁することが出来ました。

終戦の年、ソ連軍が即刻進駐し、通信、交通が全く途絶してしまいました。ふ化事業は、そのままソ連民政部によって続行することになりました。しかし、給料の支給ばかりか食料、衣類などの支給も全くなく、お互が困りましたが、特に水戸部さんでは子供8人の大家族、生活は大変だったろうと思います。その上、四女が突然発病し、村医も居ないので軍医の診察を受けましたが、武装解除後で聴診器も薬もなく、病名さえも判らぬまま亡くなりました。人一倍子煩悩であった水戸部さんや奥さんの心痛は、計り知れない程でした。

昭和22年に引き揚げ、本場、渡島支場長を経て十勝支場長となりました。昭和36年6月、退官されるまでに、戦後荒廃した施設の整備・拡充、十勝川、釧路川の密漁問題の解決など、大きな業績を挙げました。

退職後は、北海道鮭鱒保護協力会連合会に務め、現千歳支場構内に開設していた「さけ・ます資源センター」で8年余にわたり広報事業を担当し、誠

心，誠意努力されました。健康な氏は，その後も金魚卸売市場につとめて居りました。昭和52年秋に健康を害して以来，療養に専心しておりましたが，とうとう不帰の人となってしまいました。

亡くなる前日，

「紗那ふ化場の冷たい，おいしい湧水が飲みたい」

と云って家族を困らせた，と奥さんからお便りがありました。思えば，さけ・ます増殖事業に大きな足跡を残された水戸部さんの34年に及ぶふ化場生活も，その20年間を過した，恵まれない択捉での生活，苦しいソ連の抑留生活の中で可愛い盛りの四女郁子さんの死，いまは異国となった紗那こそ，生涯，心の中に強く強く刻まれた地ではなかったでしょうか。

1900年4月17日小樽に生れ，奇しくも1980年4月17日，満80歳で鬼籍に移りましたことは，天寿とも伺われます。

永い間のご交誼，ご指導は，いつも家族のような親しみがあり，多くの方々から愛された優しいお爺ちゃんでした。奥さんもお元気の様子，皆様のご健康と，故人のご冥福を心からお祈りいたします。

(さけ・ます友の会々員)

